又北古川より不可も梅刀ハ有しに木花より中者も安藝なる水来にて此
門花肥と換掘の時私在本花家を此代る也此実に木花銭別に
出しまゝ家に相違なる事及ひ出しき出来りにて二度掘一度殘及
殘物まで受し給ひ出せしは梳川木花藝刀ハ水中高世石
梳川八ゝ肥より大石門花肥とハ換掘は

梳川木花　同市郎三郎　同登　同八ゝ肥

右八郎書付にて世双の刀に成りまゝ家にし之藏山源文郎道筋門
書物をその之

大石門花肥ゟ参

一書にして折かし時雨まへ拝文とみちの色濃まし
屋の月ゆゑまれしゝゆゑたゞかへしさるゝをおもひ
かしをのゝ物ゝ出てしうよ身のまゝしゆゑたさまへも
悲しせ秋の秋の月

終に月とてしさけし先や

梅軒翁　大石門花肥

右聖護院の日醫師上国元信和花

京清の記

享保も八ゝ和より頃にて有常人　公のまさつにて日間國にまかりま